

■ 肢体不自由支援学校における実践事例

一斉授業でのさまざまな障害のある子どもへの マルチメディアDAISY図書の活用

横浜市立上菅田特別支援学校
後藤 典子

はじめに

本校は、小学部から高等部まで肢体不自由のある児童・生徒たちが在籍する特別支援学校です。特に高等部には、自立活動を主体とした教育を行っている子どもから、準ずる教育を行い、大学や職業訓練校や一般就労などを目指している子どもまで、発達段階はさまざまです。

昨年度は、特に小学部の子どもたちを中心とした医療的ケアを行いながら日常生活を送る子どもや、知的障害特別支援学校の教育課程を適用して教育を行う子どもたちを中心に研究を行いました。

今年度は、高等部に在籍する子どものうち、知的障害特別支援学校の教育課程を適用して教育を行う子どもたちを対象に、一斉授業の中でマルチメディアDAISY図書を活用する授業を中心とした活動についてご報告します。

マルチメディアDAISY図書活用の実際

①高等部 教科学習（国語）教室での活用
・高等部：知的障害特別支援学校の教育課程を適用して行う授業

わいわい文庫『ななみちゃんの漢字えほん』使用

<子どもの実態と取り組み>

高等部1年から3年まで5名の子どもたちと4名の教員による複式の形で授業を行っています。脳性まひの子どもが主ですが、AD/HDや自閉症傾向、知的な遅れを併せもつ子どもなど、実態は多岐にわたっています。また、教科の学習を行っている子どもですが、発語による会話や書字、読解などがむずかしい子どもも多く、準ずる教育ができないのが実情です。ただ、下学部、下学年の内容を扱いながらも、高等部の子どもであることを踏まえ、生活年齢に近い内容の教材を選択するように配慮しています。

漢字の学習だけでも小学校低学年で習う漢字を読むのが厳しい子どもから、小学校6年程度の漢字の読みが可能な子どもまで幅広く、教材にはルビをつける必要があります。だからと言って、ひらがなばかりの教材や小学生向けの内容であったり、登場人物が低年齢で挿絵が幼かったりしては、高等部の子どもが興味・関心をもつことがむずかしくなります。

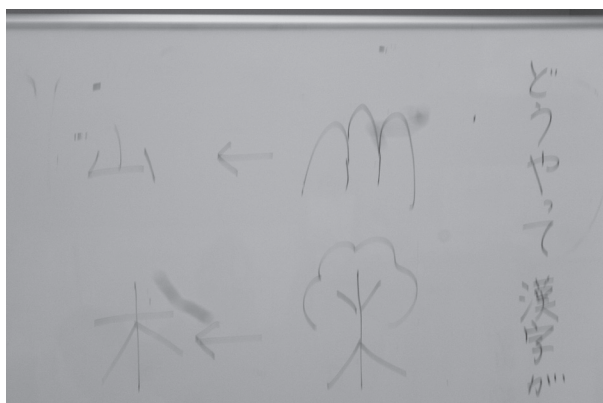
そこで、目標にあった授業計画や教材の選択、その提示の仕方などにさまざまな工夫が必要となります。

今回『ななみちゃんの漢字えほん』（マルチメディアDAISY図書）を漢字学習の教材として選択しました。書字がむずかしい子どもに、漢字に興味・関心を深めてほしいというねらいから、授業を計画しました。音声と映像から五感を使って漢字の成り立ちを知り、ゲームやクイズのような楽しい雰囲気興味・関心をもって漢字を覚えることができるのではないかと、すでに読むことのできる漢字でも、その成り立ちを知ることにより興味・関心を持ち、生活の中で活用していくことができるのではないかと考え、授業を計画しました。

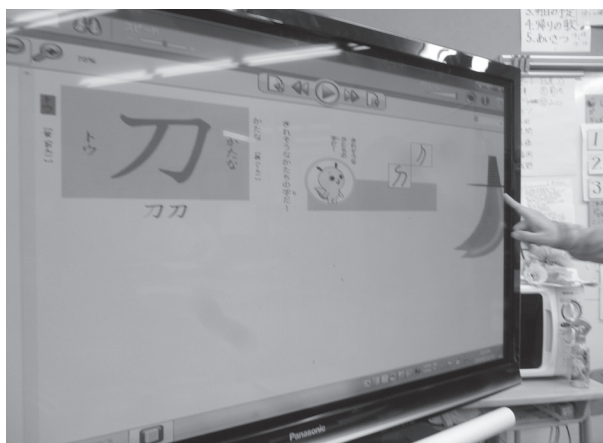
教室のパソコンから50インチの大きなテレビに映して利用しました。隣にホワイトボードと手元には、本で使われている漢字の中からいくつかの



高等部 国語 授業の様子



ホワイトボードを使って、より具体的に説明を補足



映像を使って説明を補足

漢字を抜き出したプリントを用意しておきました。

知っている「象」や「刀」などの漢字が、ゾウのどんな姿や刀のどの部分から漢字ができているかを映像によって確認することができました。抽象的な漢字を具体的なものとして捉えていたようです。子どもたちは、積極的に挙手をして次々と知りたい漢字の要望を挙げていました。楽しい授業だったという感想を子どもたちは話してくれました。紙ベースの教材では味わえない感覚を得ることができ、自分が読めたり興味・関心をもっていたりする漢字の成り立ちを、楽しく知ることができたのではないかと思います。

これからも子どもたちへの働きかけを継続していくことが、さまざまな興味・関心へとつながるものと思われま

②高等部 学年学習 教室での活用

高等部：自立活動と知的障害を併せた教育課程を適用して行う授業

わいわい文庫『11ぴきのねことへんなねこ（紙芝居風）』使用

<子どもの実態と取り組み>

高等部2年の5名と教員3名の一斉学習に使用しました。脳性まひを主としていますが、知的な遅れを併せもつ子どもで、発語による会話がむずかしい子どもたちです。ふだんから絵本やDVDへの興味・関心があり、紙芝居

にもよく親しんでいます。今回、教室のパソコンから50インチのテレビ画面に大きく映しながら見ました。画面から目を離さずに見ている子どもや、自分の感動を教員と一緒に味わおうとして、教員への働きかけをする生徒などがいました。

文字を読んだり追ったりすることがむずかしい子どもたちなので、絵を大きく見せたいと思っていました。パワーポイントのように画面いっぱい絵の全体が広がることを期待していたのですが、残念ながら見出しが出ていることで限られた大きさにしかならず、拡大のイメージが違っていました。

絵を集中して見られる子どもだけではなく、画面にあるアイコンや見出しに気を取られてしまう子どももいました。しかし、淡々と読み進められていく中で、絵の変化の激しい場面はどの子どもも集中して見る様子が見られ、興味・関心があることがうかがえました。

紙ベースの紙芝居や読み聞かせではできない効果音など、電子図書ならではの声色の変化や抑揚の変化がつけられものがあると、より効果的になるのではないかと思います。

<保護者の感想から>

マルチメディアDAISY図書 活用アンケート	
学部(小・中・高)	年 児童・生徒名
コース名()	使用教員名
活用環境	教室名() 図書室 ひだまり図書コーナー 家庭 その他()
使用した授業名と 授業内の人数	授業名: 人数(児童生徒 名 教員 名) (紙芝居風であるか: 有 無)
図書名	
取り組みの様子	
良い点	
改善点	
自由記述	
担任名	
提出先(高:後藤) ご協力ありがとうございました。	

「マルチメディアDAISY図書活用アンケート」で活用状況をお聞きしました。

③ 中学部 3 学年 家庭で活用

わいわい文庫『おすすめシリーズ (Ver.BLUE16-19)』使用

子どもの「読みたい」「見たい」気持ちに向いたときに活用しています。準備をすると一人でも読むことができ、興味のあるところは自分で戻しながら読んでいます。色のついた帯が文字を追ってくれるので、一人でも文章が読めることや読み手の声が機械的でないとところと読みの速さを調節したり文字(本)の大きさを調節できたりするところが良いです。しかし、iPadなら操作が簡単でよいのですが、パソコンでは、一人での操作がむずかしく敬遠

しがちのようです。また、読みたいものを探すのに、CDに書いてあるタイトルが見にくく、パソコン上でも探すのには誰かの助けを借りたり時間がかかったりしてしまうことが残念です。障害が重いほどパソコンよりiPadの方が一人でも活用できるところが良く、家庭でも絵本をiPad用のアプリケーションを使って見えています。

④ 小学部 3 学年 家庭で活用

昨年度の取り組みにより、引き続き今年度も子どもたちはマルチメディアDAISY図書を使っています。家庭でも継続して使用し、子どもはパソコンのスイッチを使って読んでいるという様子を、今年度本校で実施した「図書館に関するアンケート」に意見を書きました。文字が読めなかったり、本を自分でめくれないでいたりする子どもたちのために「わいわい文庫」に本の種類が増えることと、学校図書館の中にも増えることを希望しています。

今後の活用方法と課題

マルチメディアDAISY図書については、職員会議や「図書館だより」などの機会を利用して教職員だけでなく家庭にも周知するよう行っています。しかし、残念なことにその利用はなかなか伸びていないのが現状です。本校の図書などの利用は絵本とDVDが多く、

図書館や教室での読み聞かせなどに多く用いられているようです。

読み聞かせは、子どもたちの障害が重いほど顔色や表情の変化を見ながら読み進める必要があります。

また、一人ひとりの障害や環境の状況によっては、子どもから手を放したり目を離したりすることができないこともあります。そのようなことから、軽くて気軽に読み聞かせできる絵本などは活用の機会が多いものと思われます。

それに比べ、マルチメディアDAISY図書は、パソコンの準備や操作を含めさまざまな場所で活用できるまで、少し時間を要するのではないかという思いをもっている教員がいることも、活用状況の伸び悩みの一因であるように思います。

しかし、実際にマルチメディアDAISY図書を活用してみると、どの子どもも興味・関心をもつ様子が見られます。子どもたちが、画面を集中して見ているからと言って、それだけに頼るのではそのうち飽きてしまうこともあります。そのために教員が子どもたちの反応に応え、意識して手立てを行うことが必要なのだと思います。

例えば、「わいわい文庫」の画像で見た本を、図書館でも見つけられるようにすることです。図書館に同じ本がある場合は、子どもたちへの言葉がけでそこに誘うことによって本を発見するようにしたり、マルチメディア

DAISY図書で見たときの感動を一緒に共有したりします。

子どもたちに、好きな本に出会い「またあの本が読みたい」という意欲が芽生えてくるようにします。そうした一連の教員の働きかけは大きな役割を果たし、子どもたちが「本を好きになる」というきっかけの一つとなるのだと思います。教員のかかわり方によって、子どもたちはもっと深く興味・関心をもつことができるようになります。

さらに、子どもたちに適切な教材図書を提示し上手に活用するためには、教員の技量や力量が必要ではないかと思えます。本への興味・関心と読みたくなる意欲につなげるきっかけだけでなく、学習への意欲づけや内容理解のための一手段として、マルチメディアDAISY図書を活用することもできます。教員自身もマルチメディアDAISY図書への興味・関心をもつことが、その第一歩となるものと思います。

これからもマルチメディアDAISY図書「わいわい文庫」の作品が増えていくことを期待しています。そして、教員はこのような子どもたちに適切な図書を見つけ出し、興味・関心を引き出す工夫を行い活用できるようになることが必要です。マルチメディアDAISY図書が、子どもたちの喜びにつながるよう、これからも周知されていくことを期待しています。